

豊かな未来を切り拓く子供の育成

～新たな価値をつくり出す

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のある授業を通して～



鹿児島県総合教育センター研究提携校

鹿屋市立鹿屋小学校

豊かな未来を切り拓く子供

目指す子供像

学ぶ意義を実感し、学び
続けて意欲的に自己実現を
目指していける子供
(自己理解・自立)

課題解決につながる新たな
価値を生み出し行動してい
ける子供
(創造)

仲間を尊重し、仲間と協働
的に聞き合ったり学び合っ
たりして解決していける子供
(他者理解・協働)



新たな価値をつくり出す

解決に役立つ納得できる考えや新しい考え(解決策)をつくり出せたことを実感する。

研究の視点に着目した授業改善

学びの姿の設定

指導の手立ての充実

研究の視点

個別最適な学び

目的意識をもって、
自立的に学習を進める。

見方・考え方を働かせた学び

見方・考え方を働かせ
て、汎用的な解決の仕方
を見いだす。

協働的な学び

学び合って、自分の考え
を広げ深めよりよくする。



「見方・考え方を働かせた学び」を軸に、「個別最適な学び」を「協働的な学び」に生かし、さらにその成果を「個別最適な学び」に還元するなど、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させます。これらの充実により、子供たちは、自立的に学習する経験、自分の考えをよりよくする経験、見方・考え方を働かせて解決の仕方を見いだす経験を積み重ねます。

そうすることで、解決に役立つ納得できる考えや新しい考え(解決策)を自分でつくり出したことを子供は実感し、新たな場面においても、経験を重ねた学びを使って豊かな未来を切り拓いていける子供を育成することができると考えます。

II 研究の視点

見方・考え方を働かせた学びを充実させるために

- 子供が各教科等における見方・考え方を働かせて、学びを相互に関係付けて理解することができるようにしたり、見方・考え方を働かせて、納得できる考えや新しい考えといった解決策をつくり出して解決したりすることができるように、教科等の本質に迫りながら学びの深化を図ろう！

個別最適な学びを充実させるために

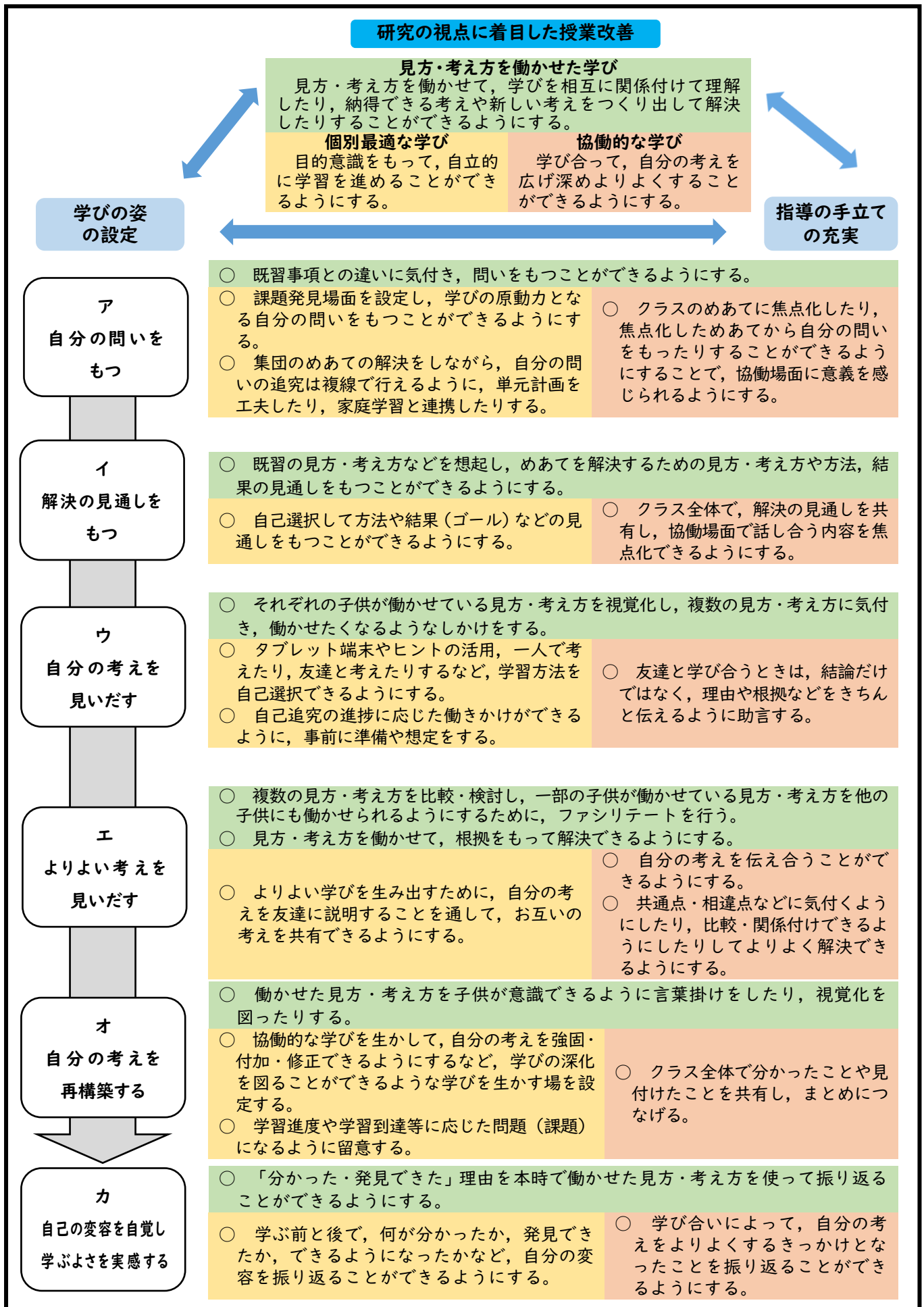
- 子供が自己調整しながら、目的意識をもって自立的に学習を進めることができるようにしよう！
- 子供各々の興味・関心や、このような自分になりたい、このようなことができるようになりたいという一人一人に応じた学習課題・学習目標を設定して学習の個性化を図ろう！
- 必要に応じて一人一人に合った指導方法を工夫して指導の個別化を図ろう！



協働的な学びを充実させるために

- 多様な他者と学び合い、異なる考えを組み合わせることで、自分やクラスの考えを広げ深めながら、よりよい学びを生みだし、よりよく解決することができるようにしよう！

Ⅲ 目指す子供の学びの姿と教師の手立て



○ 見方・考え方を働かせた学び
 ○ 個別最適な学び
 ○ 協働的な学び

IV これまでの取組内容の概要

令和3年度（1年次）		令和4年度（2年次）	
「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のある授業」の概念の理解と具現化		「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のある授業」の学びの姿の設定と学びの姿を引き出す研究の視点に着目した指導の手立ての明確化	
研究の視点	研究の内容	学びの姿	
見方・考え方を働かせた学び	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「見方・考え方カード」による見方・考え方の顕在化 ○ 教師のしかけによる顕在化と継続的な意識化（板書や言葉掛け） 	ア 自分の問いをもつ	
個別最適な学び	<ul style="list-style-type: none"> ○ 指導の個別化（自分に合った学習方法の自己選択） ○ 学習の個性化（学びの必要性をもたせるために） (1) 子供による自分が解決したい課題発見場面の設定 (2) 自分の問いを基にした集団の問いへの焦点化 (3) 自分の学習のゴールの設定や自分の問いの追究（学びの複線化） 	イ 解決の見通しをもつ	
協働的な学び	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学び合いの目的の明確化（強固・付加・修正） ○ ICTの活用による視覚化 ○ 「質問・感想・意見」による双方向の学び合い 	ウ 自分の考えを見いだす	
		エ よりよい考えを見いだす	
		オ 自分の考えを再構築する	
		カ 自己の変容を自覚し、学ぶよさを実感する	

V 令和4年度の研究を踏まえた今後の課題

職員から課題として挙げられたのは、以下の内容であった。

- 教師が子供にもってほしい問いと実際に子供がもった自分の問いに差異がある。見方・考え方を働かせることにつながる本質的な自分の問いをもつための手立ての工夫を行う必要性がある。
- 子供の「振り返り」の記述内容と教師がその授業でねらいとしていた内容との差異がある。教師が子供に働かせてほしい教科等の見方・考え方を全ての子供が働かせることが難しい。また、一部の子供が働かせている見方・考え方をうまく他の子供へ共有することが難しい。見方・考え方を共有するための手立ての工夫を行う必要性がある。

→ 以上のことより、子供に記述してほしい「振り返り」というゴールから逆算して教師の手立てを考える授業デザインの必要性が浮きぼりになった。このことから、本年度（3年次）は、「振り返り」を想定し、子供の「振り返り」から構想した授業デザインに取り組み、授業の質の更なる向上を目指すこととした。

VI 令和5年度の研究内容（3年次）：「振り返り」から構想する授業デザイン

(1) 振り返りの意義

どうして「振り返り」が注目されているの？



小学校学習指導要領総則（第3 教育課程の実施と学習評価）において、「児童が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を、計画的に取り入れるように工夫すること」と、「児童自らが」「問題解決の過程」を振り返る重要性が示されたことによって、注目されています。児童自身が「何を」「どのように学んだか」「何ができるようになったか、分かったか」等、自らの学びを振り返って自己評価を行う振り返りを重視した授業実践を行っていくことが求められています。



「振り返り」をすると、どんないいことがあるの？



「振り返り」をすることで、
 ○ 自己の変容と深まりの自覚（メタ認知） ○ 学びの文脈化による学びの定着
 ○ 学びに向かう力の向上（自己調整、学び方を学ぶ） ○ 自己の生き方を振り返る能力の育成
 につながると言われています。



子供たちはどんな観点で、どんな方法で「振り返り」をしているの？



本校の「振り返り」の観点と方法を下の表にまとめました。

「振り返り」の観点

「振り返り」の方法（発達の段階や子供の実態に合わせた方法の検討）

①できたこと、分かったこと、気付いたこと（資質・能力）	ノート記入	記入（文字数を制限する場合もある）後、ノート回収
②理由や根拠（働かせた見方・考え方）	タブレットの教育支援ツール	音声入力や録画、記入したノートを写した写真を提出、タブレットにタイピングしたものを提出
③友達の考えでなるほどと思ったこと	ワークシート	チェックリスト、○段階評価、シールを貼る
④これから（新たな問い、他単元や生活への活用）	その他	挙手、言葉で隣の友達に説明する。

(2) 「振り返り」から構想する授業デザインの実際

「振り返り」から構想する授業デザインって何？

授業終了時に子供に書いてほしい「振り返り」の記述内容を教師が想定し、その「振り返り」を書かせるためには、どのような学習内容や指導の手立てを行う必要があるか、「振り返り」の想定から逆算して授業づくりを行うことです。つまり、単元や1単位時間のゴールの子供の姿（何を学んだか？何ができるようになったか？どんな見方・考え方を働かせたか？）を「振り返り（子供の言葉で）」として明確化してから、どのように単元や1単位時間を構成するかを考えることです。

なぜこの授業デザインに取り組んでいるの？

二つの理由があります。まず、「子供が何ができるようになるのか」「どのように学ぶのか」といった子供視点で学びを捉えていく授業「観」の転換です。つまり、「子供が『何を』『どのように学んだのか』『何ができるようになったか、わかったか』を教師がしっかりと評価する必要があると思ったからです。本校では「子供が何を身に付けたか」という子供の学びの状況を把握するための判断材料の一つとして「振り返り」に着目して授業改善することとしました。

もう一つは、研究主題に対する職員の課題意識からです。その課題とは、「教師が、子供にもってほしい『問い』と実際に子供がもった『問い』のズレ」「子供の振り返りの記述内容と教師がその授業でねらいとしていた内容とのズレ」でした。このことから、子供に記述してほしい「振り返り」というゴールから逆算して教師の手立てを考えていく授業デザインを行うこととしました。

この授業デザインのよさって何？

「振り返り」を事前に想定しておくことのよさが二つあると考えています。

- ① 子供が各教科等の見方・考え方を働かせて、授業の目標を達成できているかどうかをすぐに把握することができる。（子供の学びの状況の把握）
- ② 働かせたい見方・考え方を成長させることができる授業になっていたか、教師の手立てが適切であったかどうかを評価することができる。（授業改善に向けた教師自身の評価）

「振り返り」から構想する授業デザインの一連の流れと具体

STEP 1 単元目標と単元計画（活動目標と活動計画）の設定

国語科・算数科・英語科	特別支援教育（自立活動）
(1) 学習内容の系統性を確認するために、本単元に関連する前後の学年の学習内容や指導事項を確認する。 (2) 学習指導要領解説に記載されている本単元の「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」の内容から単元・一単位時間の中で身に付けさせたい資質・能力や働かせたい各教科等の見方・考え方を確認する。 (3) 子供の興味・関心や実態、学校行事や他教科等の関連も意識した単元の題材や学習方法の検討を行い、単元計画を設定する。	(1) 標準化された検査や県総合教育センターのアセスメントシート等を活用して、子供の特別な教育的ニーズの把握を行う。 (2) (1)の結果を基に、自立活動の個別の指導計画を作成し、長期目標や指導内容を設定する。長期目標を達成するために、スモールステップで短期目標を設定し、授業レベルの具体的な活動目標と活動内容を設定する。

STEP 2 子供に書いてほしい「振り返り」の想定（キーワード）

国語科・算数科・英語科	特別支援教育（自立活動）
(1) 明確化した単元・一単位時間の身に付けさせたい資質・能力と働かせたい各教科等の見方・考え方から単元の「キーワード」を明確化する。 (2) 明確化した「キーワード」が単元のどの時間に位置付けられているか、単元目標を一番具現化できる場面をどのように位置付けるかを検討する。 (3) 「キーワード」が位置付けられている一単位時間の「振り返り」を子供の言葉で想定する。	(1) 子供の学習上又は生活上の困難から「問い」を立て、その「問い」を解決するために効果的な学習活動や「問い」を解決した状態を考えて「振り返り」を想定する。 (2) 子供の实態に合わせた振り返り内容と方法を検討する。子供の活動に対する意欲を高め、継続的に取り組むことができるよう、「振り返り」の際に子供の興味のあること・ものを活用する。

STEP 3 「振り返り」を表出しやすくするための活動や手立ての設定

想定した「振り返り」を表出しやすくするための活動や手立てを検討する。その際、本校の研究視点の「個別最適な学び」「協働的な学び」「見方・考え方を働かせた学び」に沿って、学習者主体の授業づくりに向けて設定した「A~カの子供の姿」が表われるための活動や手立てを検討する。

STEP 4 授業実施、子供の「振り返り」の活用

授業実施後、想定した「振り返り」と実際に子供が書いた「振り返り」を比較することで、子供の学びの状況を把握するとともに、授業改善に向けた教師自身の評価を行っていく。「振り返り」を次時や同じ領域の次の単元に向けた授業改善に生かしたり、次の学びにつなげたりする。

Ⅶ 各班の取組

国語科の重点事項

イ 解決の見通しをもつ

- 子供が学習の見通しをもてるようにするために、視覚的に分かりやすいモデルやワークシート等の資料を準備する。【見・考】

<p>第6学年 「『鳥獣戯画』を読む」</p> <p>書き方の工夫を探そう！</p>  <p>筆者の書き方の工夫に着目しやすいように、バットモデルとグッドモデルを準備し、比較して考えるように働き掛ける。</p>	<p>第4学年 「世界にほこる和紙」</p>  <p>教材文を精査・解釈するときに、図と説明文を対応させ、関連付けやすいワークシートを準備した。また、それぞれの事例の要点を一言でまとめ、事例と主張の関係を捉えられるようにした。</p>
---	--

ウ 自分の考えを見いだす

- 子供が自分の考えを見いだしやすくするために、説明文マップを準備し、文章の構成が分かりやすくなるように働き掛ける。【見・考】【個】【協】

<p>国語のむしめがね 1.0【むしめがねカード】</p> <p>説明的文章で、子供が言葉による見方・考え方カードを働かせやすくするために、参考になる学習用語をカード化した。音声解説がついているので、その意味を確認することができる。</p> <table border="1"> <tr> <td>見出し</td> <td>構成</td> <td>要点</td> <td>問い</td> <td>段落</td> <td>筆者</td> <td>題名</td> </tr> <tr> <td>メモ</td> <td>対比</td> <td>要約</td> <td>根拠</td> <td>簡条書き</td> <td>事例</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>組み合わせ</td> <td>要旨</td> <td>引用</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>音声解説【事例】 「ある物事や考えを説明するために例として挙げられる具体的な事実のこと。」</p> <p>むしめがねカードの【事例】は、本文中のどこのことなんだろう？どこを読めばいいのかわからないな。</p>	見出し	構成	要点	問い	段落	筆者	題名	メモ	対比	要約	根拠	簡条書き	事例			組み合わせ	要旨	引用				<p>国語のむしめがね 2.0【説明文マップ】</p> <p>「むしめがねカード」を説明文の三部構成「はじめ・中・終わり」と対応させたもの。カードに書かれたキーワードが示している具体的な叙述を子供に捉えさせることで、子供が言葉による見方・考え方を働かせやすくなった。</p> <p>第4学年「世界に誇る和紙」～筆者の考えを探す場面～</p> <p>文末が「考えてみます。」で終わっていると、筆者の考えじゃないかな？</p> <p>「このように」は、まとめる言葉だから、筆者の考えが続きそう。</p> <p>「よさ」「使ってほしい」という言葉が、くりかえし出てくるから重要そうだ！</p> <table border="1"> <tr> <th>筆者の考え</th> <th>事例</th> <th>筆者の考え</th> <th>サントイッチ型</th> </tr> <tr> <td>このように 文頭 接続語 ↓ 文末表現 ↓ です。</td> <td>なぜなら 文頭 理由 ↓ だから、このためです。 ↓ 文末表現 ↓ です。</td> <td>まず、もう一つ 文頭 理由 ↓ 考えています。 ↓ です。</td> <td>キーワード ↓ 繰り返し 繰り返す 繰り返す</td> </tr> </table> <p>授業の中で、子供たちが見いだした「言葉による見方・考え方」を基に、説明文マップを作成していく。次の単元でも活用し、その教材文に合った形で作成する。</p>	筆者の考え	事例	筆者の考え	サントイッチ型	このように 文頭 接続語 ↓ 文末表現 ↓ です。	なぜなら 文頭 理由 ↓ だから、このためです。 ↓ 文末表現 ↓ です。	まず、もう一つ 文頭 理由 ↓ 考えています。 ↓ です。	キーワード ↓ 繰り返し 繰り返す 繰り返す
見出し	構成	要点	問い	段落	筆者	題名																								
メモ	対比	要約	根拠	簡条書き	事例																									
	組み合わせ	要旨	引用																											
筆者の考え	事例	筆者の考え	サントイッチ型																											
このように 文頭 接続語 ↓ 文末表現 ↓ です。	なぜなら 文頭 理由 ↓ だから、このためです。 ↓ 文末表現 ↓ です。	まず、もう一つ 文頭 理由 ↓ 考えています。 ↓ です。	キーワード ↓ 繰り返し 繰り返す 繰り返す																											

カ 自己の変容を自覚し学ぶよさを実感する

- 子供が自己の変容を自覚しやすいように、発達の段階に応じた振り返りの指導を行う。（観点の数値化、ノートへの記述、音声入力やタイピング入力等）を行う。【見・考】【個】【協】

<p>第1学年 「振り返り方法の変化」</p> <p>1・2学期 音声入力 11月 ワークシート記述</p>  <p>話し始めの型を決め、それを基に自分の考えを録音した。</p> <p>次時から自分の書きたい車をまとめるので、「明日の自分へ教えてあげたいこと」で振り返りを書いた。</p>	<p>第6学年 「『鳥獣戯画』を読む」</p>  <p>学習支援ツールの活用による「振り返り」の共有</p> <p>子供が書いた「振り返り」</p>
---	---

国語科における振り返りから構想する授業デザインの実際

第5学年 単元名 資料を用いた文章の効果を考え、それをいかして書こう

(教材名「固有種が教えてくれること グラフや表を用いて書こう」 光村図書)

STEP 1 単元目標と単元計画の設定

まず、学習指導要領解説の記述から、「C読むこと」の説明文単元において身に付ける資質・能力の系統性を確認した。国語科では、学習指導要領解説に示される資質・能力が2学年ごとに記述されているため、特に、第5学年1学期～第6学年3学期までの説明文教材の内容や配置を踏まえるよう留意した。

【前単元】「C読むこと」構成や文末表現、繰り返し出てくる言葉等に着目して筆者の考えを読み取り、要旨をまとめる力

【本単元】「C読むこと」文章と図表を結び付けて、必要な情報を見付ける力

「B書くこと」グラフや図表等の資料を文章と対応させ、説得力のある文章を書く力

また、本単元を学習する目的意識をもつために、総合的な学習の時間「米作り」との関連を図った。具体的にはパンフレットを作成し、近隣の小学生に紹介する学習活動を設定した。本単元に入る前に、既習内容がどれだけ定着しているか実態調査をした結果、多くの子供が「要旨」の書き方についての定着が弱いことが明らかになった。この実態を踏まえ、本単元の学習計画では要旨をまとめる学習を重点的に組み込んだ。

単元計画

1,2	資料を活用した文章を読んだり、書いたりする活動の見直しをもち学習課題を立てる
3,4	文章の構成(双括型)を押さえて論の進め方を確認し、文章の内容の大体を捉える。
5	双括型の論の進め方を捉え、要旨をまとめる。(本時)
6	自分が興味をもった資料や文章を読むために、文章と資料を結び付けながら読む。
7	資料から読み取れることと、それを用いていることの効果をもとめ、考えを伝え合おう。
8	社会や総合的な学習の時間で学んだ「米」に関する自分の考えをもち、資料を探して、適切なグラフや表を選ぶ。
9	資料から分かる事実とそこから考えたことを書き出し、文章構成を考える。
10	図表やグラフを用いて、考えが伝わるように書き表し方を工夫し、下書きをまとめる。
11	下書きを推敲し、文章を完成させる。
12	これまでに注意してきた観点を意識して読み合い、文章のよいところを見つける。

STEP 2 子供に書いてほしい「振り返り」の想定(キーワード)

「要旨をまとめる」につながる二つの「言葉による見方・考え方」に焦点をあてた。

- ① 本文の主要なテーマやアイデアを理解するために必要な「言葉による見方・考え方」の一つである「繰り返し出てくる言葉」を考え、「固有種」「環境」「残す」をキーワードとして設定した。
- ② 筆者の意図やメッセージを読み取るために必要な「おしめがねカード」の一つである「文末表現」に着目し、「考えています。」「～なければなりません。」をキーワードとして設定した。

STEP 3 「振り返り」を表出しやすくするための活動や手立ての設定

個別最適な学びとなるよう、要旨を書く際に必要なキーワードに子供が気付けるよう、自分が書いた要旨と他の要旨(①学習者自身が書いた単元序盤の要旨、②友達の要旨、③教師のバッド/グッドモデル)との比較を行った。この過程で、個別最適な学びと協働的な学びが効果的に展開されるよう、子供が必要に応じて学習形態(①一人で、②友達と、③教師・友達と一緒に)と方法(①ワークシート、②黒板、③タブレット)を選択できるようにした。協働的な学びで深めていけるよう、要旨について友達と比較した後、全体で共有を図った。要旨を書くために必要なキーワード「繰り返しの表現」「文末表現」に気付けるようファシリテートし、子供たちの言葉をつないだ。

本時の目標(5/12)(STEP1の結果)

文章の構成、事例と筆者の主張を捉え、必要な語句を抜き出しながら要旨をまとめることができる。

本時で働かせたい言葉による見方・考え方(STEP2の結果)

友達がまとめた要旨と自分がまとめた要旨との比較を通して、繰り返し出てきている言葉や文末表現等に着目し、筆者の主張を捉え、必要な語句を抜き出しながら要旨をまとめることができる。

本時の振り返りの想定(STEP2の結果)

①できたこと、分かったこと、気付いたこと(資質・能力)	最初は上手く要旨を書けなかったけれど、筆者の考えを使って書けば良いと分かりました。
②理由や根拠(働かせた見方・考え方)	要旨をまとめるときは、何度も繰り返し出てくる大事な言葉を使ったり、文末の言葉を見比べてたりして筆者が伝えたいことが何か考えれば良いことに気付きました。
③友達の考えでなるほどと思ったこと	筆者の主張は「はじめ」の段落だけに書かれていると思ったけど、「おわり」の段落にも筆者の主張が書かれているという友達の考えを聞き、この説明文はサンドイッチ型(双括型)であることが分かった。
④これから(新たな問い、他単元や生活への活用)	米の資料を作るときにも、事例だけでなく自分の考えもしっかり伝えていきたいです。自分の考えがしっかりと伝わるように、書く順序も意識していきたいです。

本時の展開 (5 / 12)

主な学習活動	研究視点から考える本の重点項目【見・考】【個】【協】
<p>1 前時を振り返り、自分の問いをもつ。</p> <p>・ 要旨は何をけばいいのかな。 ・ 筆者の主張はどこに書かれているのかな。</p> <p>2 本時のめあてを確認する。 要旨はどのように書けばよいのだろうか。</p>	<p>イ 解決の見通しをもつ 既習の活用【見・考】【個】</p> <p>要旨とはどんな文章であるかを子供が理解するために、同じ領域の前の単元である「見立てる」の要旨を提示した。また、子供自らが、筆者の主張が書かれているのが「はじめ」「おわり」とであると気付けるよう、要旨に書かれている筆者の主張が本文のどの段落に書かれているか探す活動を行った。本単元の要旨を書く際の手がかりとして既習を活用した。</p> 
<p>3 要旨をまとめる。 (1) 要旨を書く。 (2) 友達が書いた要旨と比較し、要旨を書くために必要な言葉や筆者の主張がどこに書かれているか話し合う。 (3) 筆者の主張をどのようにまとめればよいか全体で話し合う。</p>	<p>ウ 自分の考えを見いだす 説明文マップの活用 【見・考】【個】</p> <p>本時においても、子供たちが働かせた言葉による見方・考え方を参考に、説明文マップを作成した。まずは、自分の考えを見いだすために、筆者の主張がどこに書かれているかそれぞれ位置付けた上で要旨を書いた。その後、友達が書いた要旨と比較する活動を通して、「筆者の主張」が「はじめ」「おわり」に記述されていることに気付き、説明文マップに位置付けた。その後、「筆者の主張」を読み取るための「文末表現」や「繰り返し出てくる言葉」もそれぞれ説明文マップに位置付けていった。</p> 
<p>4 学習のまとめをする。 要旨は、筆者の考えと事例を使って書くことができる。</p> <p>5 本時の学習を振り返り、次時の予告を聞く。</p>	<p>カ 自己の変容を自覚し学ぶよさを実感する 「振り返り」の観点の提示 【見・考】【個】</p> <p>振り返りが苦手な子供にも書きやすくするために、教師があらかじめ観点を指定する事で、本時の学習活動を振り返りやすくする。</p> <p>観点① できたこと・分かったこと (資質・能力) 観点④ これから (他単元への活用) 友達との意見交流をきっかけとして、要旨を書けるようになったという自己の変容を自覚し、他単元に向けた意欲について記述のある「振り返り」。</p> <p>観点② 理由や根拠 (働かせた見方・考え方) 要旨を書くために「文末表現」と「繰り返し出てくる言葉」といった「言葉による見方・考え方」についての記述のある「振り返り」。</p> 

STEP 4 授業実施, 子供の「振り返り」の活用

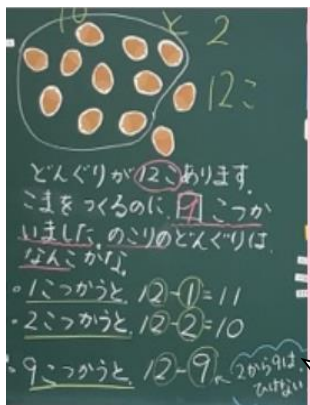
子供の「振り返り」についての内容と評価
 観点①自己の資質・能力の変容に関する記述としては、「要旨が書くことができた。」という記述が多く見られた。観点②言葉による見方・考え方に関する記述は、「繰り返し出てくる言葉」や「文末表現」について記述していた子供が多かった。観点③他者理解・協働に関する振り返りとして、友達の考えや要旨との比較をしたことで、筆者の主張が書かれている段落への気付きについて記述していた子供もいた。観点④新たな問い・活用に関する振り返りとしては、「他の説明文でも要旨を書きたい。」という次の単元への意欲を示す記述が見られた。

手立てについての教師自身の評価, 行った授業改善
 筆者の主張を捉えるのが苦手な子供に要旨を書くためのヒントを教師が示したことで自力解決を行い、学びの変容を実感していた。説明文マップを活用したことで、「おしめがねカード」を説明文の三部構成「はじめ・中・終わり」と対応させることができた。また、「繰り返し出てくる言葉」や「文末表現」が示している具体的な叙述を子供に捉えさせることで、子供の「言葉による見方・考え方」を働かせ、要旨をまとめることができた。他の単元で、子供自らが筆者の主張を見だし、要旨としてまとめることができるよう、説明文マップの効果的な活用を今後見だしていく。

算数科の重点事項

ア 自分の問いをもつ

- 子供がめあてや解決したいことを自分で考えられるようにするために学習課題提示の工夫をし、自分の問いを考えることができるようにする。【見・考】【個】

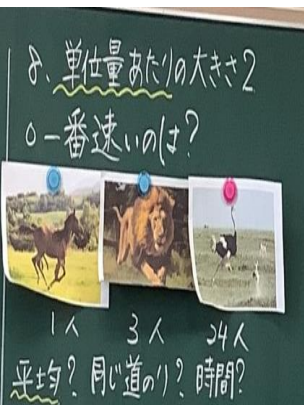


スモールステップ

第1学年 「ひきざん」

- 問題文の一部を□とし、既習事項を押さえながら、今までの学習との違いに気付くことで、自分の問いをもつことができた。

C: 2から9は引けないよ。
T: どうすればいいかな。



情報不足

第5学年「単位量あたりの大きさ」

- 3枚の動物の写真を見せ、「一番速いのは何かな?」と聞き、予想し、その後、どんな情報があったら比べることができるかを考えることで、自分の問いをもつことができた。

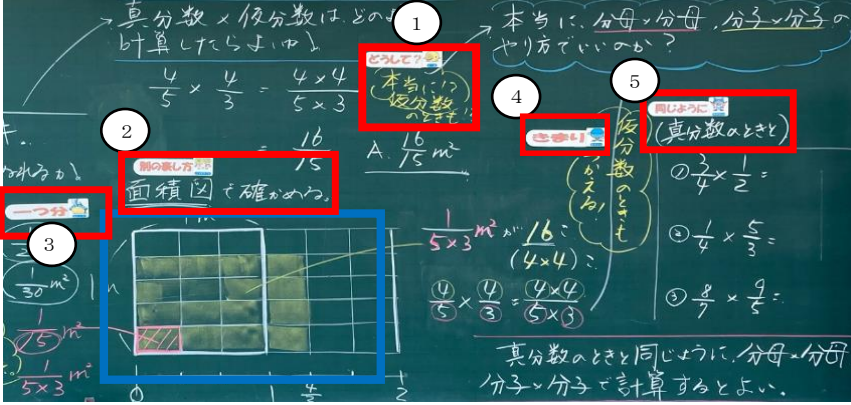
エ よりよい考えを見いだす

- 子供がよりよい考えや事柄の本質へ迫っていけるように吟味を促すファシリテートを行う。そのために子供の思考や本時で働く数学的な見方・考え方を想定した発問を準備しておく。【見・考】【協】
- 子供が自分の考えを説明し合う活動を設定することで、よりよい考えに高めたり、事柄の本質を明らかにしたりするなど、考えを広げ深めることができるようにする。【見・考】【協】

第6学年 「分数×分数」

見方・考え方モンスターの活用


見方・考え方モンスターの活用を行い、全体の学びの場で、働かせた数学的な見方・考え方について共有する。




多面的に捉え、考えることのよさを実感できるようにするために、式と面積図を関係付けられるようにファシリテートを行う。

カ 自己の変容を自覚し学ぶよさを実感する

- 子供が学びを振り返り、自己の変容を自覚して、学ぶよさを実感できるように、振り返りの視点を提示する。【見・考】【個】【協】
- 子供が本時で働かせた数学的な見方・考え方を自覚できるように、教師が子供の振り返りを想定しておくとともに、子供の考えを板書して視覚化しておく。【見・考】



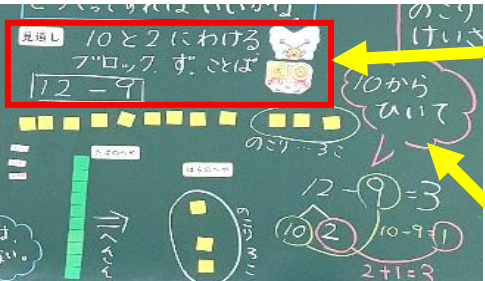
想定した「振り返り」を表出しやすくするために、数学的な見方・考え方をどのように働かせたか、視覚化した子供たちの考えを板書する。



第1学年 「ひきざん」

教師が想定した「振り返り」

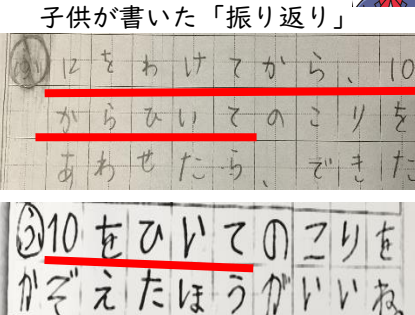
- ① 分けてから計算すればいいことが分かった。
- ② たし算と同じように分けて計算すればできた。速くできた。
- ③ ○○さんの考えを聞いたから、計算の仕方が分かった。
- ④ もっと大きい数のひき算も計算してみたい。



◎発達の段階における振り返りの方法

- ・指名発表, 自由発表 (低学年)・録音して提出, 共有 (1年)
- ・日記に振り返りを書く (中・高学年)
- ・学習支援ツールで共有 (全学年)・単元テスト裏に記入 (中・高学年)

子供が書いた「振り返り」



第3学年 単元名 大きい数（学校図書）

STEP 1 単元目標と単元計画の設定

学習指導要領解説や教科書を基に、第2学年では、4位数までの整数について、10や100のまとまりに着目し、大きな数の比べ方や数え方を考えることについて指導してきたことを確認した。
 第3学年では、整数の表し方に関わる数学的活動を通して、これまでと同じように数のまとまりに着目し、大きな数の大きさの比べ方や表し方を考えることを確認し、単元の目標を設定した。
 また、日常で目にする千万の位までの大きい数や学校行事である遠足との関連を図った。第6時においては遠足のおやつを買う場面を想定させ、本時の学習において必要性をもつことができるようにした。

単元計画

1	十進位取り記数法で1000が10個集まった方法を考え、紹介し合う。
2	位取り表を用い、286837, 1178690, 14602500の読み方や、構成について考える。
3	13740000について、一万や千などの数を単位とした数の相対的な見方を考える。
4	数直線の1目盛りの大きさと大小関係を考え、数直線上の数を読む。
5	位ごとに考えて数の大小比較をする。
6	20の10倍、25の10倍、100倍、1000倍の数を求め、答えの位ごとの数値を調べる。 (本時)
7	10でわったとき、商の各位の数値がどのように変わるのかのきまりを考える。
8	1～8までの数カードを使って、答えがいちばん大きい加法や答えがいちばん小さい減法の問題を作る。
9	千万の位までの数を讀んだり、書いたりする。また、大きい数の数構成を調べる。
10	大きい数の数構成を確認する。数直線上に数を表す。位ごとの数の大きさを考えて、大小比較をする。

STEP 2 子供に書いてほしい「振り返り」の想定（キーワード）

数のまとまりに着目し、大きな数の大きさの比べ方や表し方について考えるために、学習指導要領解説や教科書を基に、本時で働かせる数学的な見方・考え方と関連する見方・考え方モンスターを明確化した。
 振り返りのキーワードとして、資質・能力に関しては、「10倍、100倍すると位が上がって、数の右に0がつくというきまりを見付けた。」とした。見方・考え方に関しては、10のまとまりを一つ分とする「ヒトツツ(一つ分)」、既習と同じように10のまとまりを作って考える「オナジン(これまでと同じように)」,そのため25を20と5に分けて考える「ワッケル(分ける)」をキーワードとした。協働に関しては、「自分が考えていた数学的な表現と友達が考えていた異なる数学的な表現との関連付けへの気付き」とした。新たな問いとしては、「1000倍や10でわるといった発展的な内容」とした。

STEP 3 「振り返り」を表出しやすくするための活動や手立ての設定

個別最適な学びとなるよう、子供が自分の問いをもつための「学習課題提示の工夫」を行った。具体的には、日常生活に関する課題に置き換えて必要性をもたせたり、□を用いて問いの一部を隠して、これまでの課題との違いを明確にしたりした。協働的な学びで深めていけるように、「子供の言葉をつなぐファシリテーターとしての教師の役割」を意識して取り組んだ。見方・考え方を働かせることができるように、本校で作成した見方・考え方モンスターも活用して視覚化したり、思考方法を比較したりできるようにした。



本時の目標（6/10）(STEP1の結果)

数のまとまりに着目したり、位取り表を用いて関係を比較したりすることで、10倍、100倍、1000倍の数の表し方を理解することができる。

本時で働かせたい数学的な見方・考え方 (STEP 2の結果)

数のまとまりに着目して、それぞれの束を一つ分としてそのいくつ分になるか(ヒトツツ)という単位の考えや、25などの数を20と5に分ける(ワッケル)ことで、25の10倍は、「20の10倍と5の10倍に置き換えるを活用する」といった考え(オナジン)を生かし、位取り表を比較する活動を通して、位取りのきまりや関係性に気付けるようにする。

本時の振り返りの想定 (STEP 2の結果)

①できたこと、分かったこと、 気付いたこと(資質・能力)	はじめは何で友達があんなに早く25×10ができていたのか不思議だったけど、位取り表で確かめたりしたことで、10倍、100倍すると位が上がって、数の右に0がつくというきまりを使っていたことが分かって納得したよ。
②理由や根拠 (働かせた見方・考え方)	25を20と5に分ける(ワッケル)ことで、これまでと同じように(オナジン)、十のかたまりができて、計算で求めることができたよ。
③友達の考えでなるほどと思ったこと	〇〇さんが、位取り表を使って10倍、100倍の数を表したとき、数の右に0がつくことを教えてくれたから、きまりがよく分かったよ。
④これから(新たな問い、 他単元や生活への活用)	色々な数でも、やり方が同じか試してみたいな。10000倍させたり、10で割ったりしたらどうなるのかな。

本時の展開 (6/10)

主な学習活動	研究視点から考える班の重点項目【見・考】【個】【協】
<p>1 本時の学習課題を把握する。 □を10こ分集めた数は？</p> <p>(1) 5円を10こ分？ (2) 20円を10こ分？ (3) 25円を10こ分？</p> <p>・5×10だよ。20×10, 25×10だよ。 ・200, 250だよ。簡単だよ。</p> <p>2 自分の問いをもつ。</p> <p>・25×10の答えが分からないな。 ・何ですぐに答えが分かったのかな。 ・何かきまりがあるのかな。</p> <p>3 学習問題を焦点化させる。 □を10倍させた数はどうなるのだろうか。</p> <p>4 問題解決の見通しをもつ。</p> <p>・10を一つ分て考えてみようかな。 ・25を20と5に分けてみよう。</p> <p>5 問題解決に取り組む。</p> <p>(1) 20×10を全体で解決する。 (2) 25×10を自己選択した学び方で解決する。</p> <p>6 全体での学び合いを行う。</p> <p>(1) 25×10の解決方法を考える。 ・25を20と5に分けて計算したらできた。 ・習った形に変えて、10のいくつ分て考えたいね。 (2) 20×10と 25×10を比べる。 ・位取り表で比べてみよう。10倍すると、どちらも位が1つ上がり、右に0が1つついているね。 ・そのきまりを使うとはやくできるね。 (3) 25×100, 25×1000を考える。 ・100倍は、10×10倍だ。 ・さっきのきまりを使えばできる。</p> <p>7 本時のまとめをする。 どんな数でも10倍すると位が1つ上がって、右に0を1つつけた数になる。</p> <p>8 本時の振り返りをする。</p>	<p>ア 自分の問いをもつ 学習課題提示の工夫【見・考】【個】</p> <p>1 日常生活に関する課題に置き換えて必要感をもつ。 → 遠足のおやつを買いに行くという設定。お店で同じものを10個買うと想定し、おやつの総額が決まっていたとしたらその場で素早く計算をしなければならないという設定にして、必要感をもたせる。</p> <p>2 □を用いて課題の一部を隠して、本時の課題とこれまでの課題との違いを明確にした。 → 本時は既習の一位数\times一位数ではなく、かけられる数が20や25の二位数$\times 10$であることを明確にした。また、□にしてテンポよく答えることができるようにすることで、未習の学習にも関わらず即答できた子がいることに違和感をもたせ、その違和感が自分の問いに発展するよう仕掛けた。</p> <p>また、かけられる数が5の場合は既習なので、これまでと同じように考えれば答えを求められそうだという見通しをもつことができることも意図して□を用いた。</p> 
<p>(1) 20×10を全体で解決する。 (2) 25×10を自己選択した学び方で解決する。</p> <p>6 全体での学び合いを行う。</p> <p>(1) 25×10の解決方法を考える。 ・25を20と5に分けて計算したらできた。 ・習った形に変えて、10のいくつ分て考えたいね。 (2) 20×10と 25×10を比べる。 ・位取り表で比べてみよう。10倍すると、どちらも位が1つ上がり、右に0が1つついているね。 ・そのきまりを使うとはやくできるね。 (3) 25×100, 25×1000を考える。 ・100倍は、10×10倍だ。 ・さっきのきまりを使えばできる。</p> <p>7 本時のまとめをする。 どんな数でも10倍すると位が1つ上がって、右に0を1つつけた数になる。</p> <p>8 本時の振り返りをする。</p>	<p>エ よりよい考えを見いだす 子供の言葉をつなぐファシリテーターとしての教師の役割【見・考】【個】【協】</p> <p>1 友達(ペア・グループ・自由)と学び合う場を設定し、話し合う観点を焦点化(本時では考え方の共通点や相違点)した上で、質問・感想・意見を交流させた。</p> <p>2 算数科の見方・考え方に関連するモンスターを活用して、本時で働かせたい見方・考え方を視覚化し、位取り表を基に、10倍したときの思考方法を比較できるようにした。</p> 
<p>(1) 20×10を全体で解決する。 (2) 25×10を自己選択した学び方で解決する。</p> <p>6 全体での学び合いを行う。</p> <p>(1) 25×10の解決方法を考える。 ・25を20と5に分けて計算したらできた。 ・習った形に変えて、10のいくつ分て考えたいね。 (2) 20×10と 25×10を比べる。 ・位取り表で比べてみよう。10倍すると、どちらも位が1つ上がり、右に0が1つついているね。 ・そのきまりを使うとはやくできるね。 (3) 25×100, 25×1000を考える。 ・100倍は、10×10倍だ。 ・さっきのきまりを使えばできる。</p> <p>7 本時のまとめをする。 どんな数でも10倍すると位が1つ上がって、右に0を1つつけた数になる。</p> <p>8 本時の振り返りをする。</p>	<p>カ 自己の変容を自覚して、学ぶよさを実感する 振り返りの方法【見・考】【個】【協】</p> <p>自己の変容を自覚して、学ぶよさを実感させるために、本校の振り返りの四つの観点到に沿ってノートに振り返りを書くようにした。それを写真で撮り、タブレットを活用して全体で共有した。数学的な見方・考え方を働かせていたり、自己の変容を自覚できていたりする子供数名に振り返りを発表できるようにして価値付けた。</p> 

STEP 4 授業実施、子供の「振り返り」の活用

子供の「振り返り」についての内容と評価

観点①自己の資質・能力の変容に関する記述としては、まとめを参考にして、10倍すると位が上がり右に0がつくなど、できたことや分かったことに関しては記述できていた。観点②数学的な見方・考え方に関する記述は多く見られた。オナジンやワッセルなど、モンスターを活用して視覚化した成果だと考える。観点③他者理解・協働に関する振り返りとして、学び合いができた友達の名前を書いている姿が見られた。観点④新たな問い・活用に関する振り返りとしては、10000倍など、新たな問いをもつ姿は見られた。

手立てについての教師自身の評価、行った授業改善

子供全員が自己の変容を自覚し、学びのよさを実感するために、導入時にもった自分の問いを振り返り、終末時の自分と比べながら振り返らせる必要があると考えた。そのために、板書やノートに疑問や発見などのつぶやきを吹き出しを用いて視覚化したり、見方・考え方がどのように関連しているかを構造的に板書したり、練り上げる場面でより理由や根拠を大切にさせたりするなどして授業改善を図った。また、子供一人一人が自らの実態や興味・関心に合わせて学習できるよう選択肢を準備する必要性も感じた。そのため、難易度の異なる適用問題、本時のねらいに沿った問題の自作、自分の問いに向き合う時間の確保をすることで、想定した振り返りを書く姿が見られるよう授業改善を図った。

次時へ・次の単元へ

英語科の重点事項

「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を「見方・考え方」と略記します。

ア 自分の問いをもつ

- 子供が見方・考え方を働かせた解決に向けた自分の問いをもつことができるように、試しのやり取りなどをしたり、スキットを見たり、前時の困り感を振り返ったりする場面を設定する。【見・考】【個】【協】



見方・考え方を働かせるしかけのスキット

第3学年 単元名 “How many?”

数を分かりやすく伝える必要があるということに気付けるようにするために、thirteen(13)の語尾であるteenを小さな声で、ジェスチャーをつけずに伝えた。このスキットにより、子供たちは、「13?30?」「聞き取りにくくて困っているよ!」などと気付いた。それにより、自分のめあてやクラスのめあてに「分かりやすく伝える」というキーワードが設定された。単元の目標を達成するための主な見方・考え方は、他者への配慮として、ジェスチャーやクリアボイスを思考方法として、大事な情報の吟味を想定している。

イ 解決の見通しをもつ

- 子供が何を伝えたいか、どのように伝えたいか、伝える内容などを自己選択・自己決定できるように、Big Goalの簡略化したモデルなどを提示する。【見・考】【個】【協】
- 子供が本時の解決の見通しをもてるようにするために、どのように自分の表現をよりよくしていけばよいか、困り感や工夫の視点などを共有する。【見・考】【協】



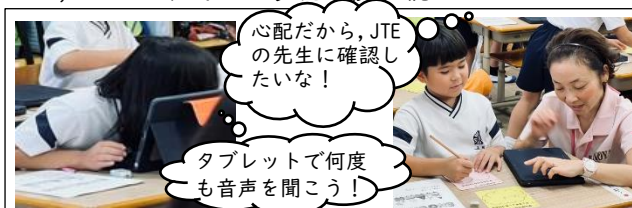
伝えたい内容を自己選択する様子

第1学年 単元名 “このどうぶつなあに?”

台湾の友達と仲良くなるための自己紹介の工夫を、「①伝える好きなものを増やす」、「②動物のジェスチャーを加える」、「③質問を加える」の3つに絞り、どのように伝えたいか自分の思いをもとに、自己選択・自己決定を行って活動している。「自分の好きなものをもっとたくさん伝えたいな」、「私は、日本のお菓子を知っているか聞いてみたいな」など、台湾の友達のことを考えながら、活動に取り組むことができた。

ウ 自分の考えを見いだす

- 子供が見方・考え方を働かせて自分の考えをもち、解決できるように、Tryでは、学習形態を自己選択したり、ICTを活用して表現に慣れ親しんだりできるようにする。【見・考】【個】



学習形態を自己選択して自分の考えをもつ様子

第1学年 単元名 “このどうぶつなあに?”

自己紹介に使う英語表現を練習している様子である。自分の知りたい英語表現に合わせて、「タブレットに保存してある教師のお手本動画を聞く」、「JTEの先生に聞く」、「友達に聞く」など、学習方法を自己選択・自己決定している。また、授業中盤で友達の自己紹介を聞くことで、自分の自己紹介をより高められるようにしている。

エ よりよい考えを見いだす

- 子供が中間フィードバックにおいて、表現を深めたり、広げたりすることができるような視点に気付いて話し合えるように、児童の発表を見たり、指導者によるモデルなどを提示したりする。そして、視点に気付いたり、深めたりできるようなファシリテートをするために、中間フィードバックの内容を想定しておく。

【見・考】【協】



発表する児童

第3学年 単元名 “How many?”

他者への配慮として、「分かりやすく伝える」ための工夫をしている子供が発表した。数字が伝わるように、ジェスチャーを付けている様子である。

第2学年 単元名 “このどうぶつなあに?”

友達同士で作ったクイズを伝え合って、よかったところを教え合い、工夫を増やしている。



伝え合う様子

カ 自己の変容を自覚し学ぶよさを実感する

- 子供が自己調整して学習を主体的に進めることができるように、終末場面の振り返りだけではなく、常に自分の学びを振り返ることができるようにする。具体的には、単元の目的や、本時のめあて、前の自分の様子、本時でどんなことをどのように頑張っているかなどの声かけや価値付けを適宜行う。【見・考】【個】【協】



めあてを再確認する様子

第5学年 単元名 “Where is the post office?”

Tryや再構築場面である撮影タイムの前に、本時のめあてを再確認し、目的に沿って、自己の変容を自覚しながら学習を進められるようにした。本時の目的は、「相手が楽しめるような道案内」だったので、到着場所のできることや、到着場所の感想など、自分の考えを付け加えて、他者意識をもって道案内することを再度意識して、前時よりもよりよい道案内になっていく様子が見られた。

英語科における振り返りから構想する授業デザインの実際

第5学年 単元名 “Where is the post office? ～This is the information center!!～”(東京書籍 NEW HORIZON)

STEP 1 単元目標と単元計画の設定

子供はこれまでに、自分のことを友達に紹介すること、誕生日や欲しいものを伝えること、教科や職業、身近な人を紹介することを学習してきている。本単元は、自分の知りたい場所や位置をたずねたり、相手を案内したりする内容になっている。そこで、道案内や位置の表現に、既習表現（様子、できることなど）を取り入れて紹介することができるようになることとよいと考え、単元目標を設定した。本単元では、台湾の小学生が本校に来校する行事との関連をもたせ、言語活動を設定した。具体的には、目的、場面、状況等に応じたコミュニケーションが行えるように、「台湾の友達に鹿屋を知ってもらうために、おすすめの場所を道案内しよう」と設定した。また、目標を達成するときに、本単元で働かせたい外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方（以下、見方・考え方と記す）を確認した。

単元計画

1	単元のゴール (Big Goal) を決めて、達成するために必要な語彙や表現を考え、自分の問いをもつ。 台湾の友達に鹿屋を知ってもらうために、おすすめの場所を道案内しよう。This is the information center!!
2.3	道案内や位置、様子、できることを伝えるために必要な表現や言葉に慣れ親しむ。
4.5.6	自分の紹介したい場所について、道案内や位置、様子、できることなどを伝える。(第4時：本時)
7	台湾の友達が行ってみたい場所の道案内をする。
8	単元を振り返る。

STEP 2 子供に書いてほしい「振り返り」の想定（キーワード）

まず、本単元における見方・考え方を検討した。道案内をするためには、ジェスチャーを付けたり、表情を工夫したり、伝わったか確認をしたりすることが必要となる。また、より理解してもらうために、相手に必要な情報は何かを考えて伝えることが必要となる。必要な情報とは、案内した場所でどんなことができるかや感想などであり、それらを伝えるためには、既習表現を活用することが必要となる。そこで、働かせる主な見方・考え方を「ジェスチャー・表情・確認・必要な情報の精査・既習表現の活用」とした。これらを踏まえて、第4～6時において、第2・3時で慣れ親しんだことがより深まっていくように単元計画を立てた。第7時には、実際に台湾の小学生に道案内をする時間を設定した。次に、本時の「振り返り」のキーワードを検討した。資質・能力に関しては、「道案内ができる・様子やできることを付け加える」とした。見方・考え方に関しては、「ジェスチャー・表情・確認・必要な情報の精査・既習表現の活用」とした。協働に関しては、「友達の表現のよさへの気付き」とした。新たな問いとしては、「相手の立場にたった表現の工夫」とした。詳細は、紙面中盤の振り返りの想定 (STEP 2の結果) に示す。

STEP 3 「振り返り」を表出しやすくするための活動や手立ての設定

個別最適な学びとなるよう、道案内したい場所を自分で決めるようにした。また、想定したまとめや振り返りの達成につながる自分の問いや見通しをもつことができるように、導入でスキット・動画視聴を取り入れた。協働的な学びで深めていけるように、ファシリテートを想定し、話し合いの視点を明確にした中間フィードバックを数回設定することにした。見方・考え方を働かせることができるように、一単位時間の指導、課題発見のためのしかけを行うことにした。詳細は、本時の展開に示す。

本時の目標（4/8）(STEP 1の結果)

相手の知りたい場所をたずねたり、道案内したりするために、Where is ~? Go straight for ~ block. Turn left/right. You can see it on your~.などの簡単な語句や基本的な表現に、既習事項を付け加えながら分かりやすく情報や考えなどを伝え合おうとすることができる。

本時で働かせたい言葉による見方・考え方 (STEP 2の結果)

相手に合わせて伝えたいことを整理し、これまで学習した表現「You can ~.」などを付け足して内容を詳しくすると、より相手に伝わるようになる。

笑顔でジェスチャーを入れたり、理解しているか確かめたりしながら相手の気持ちを考えて伝える必要がある。

本時の振り返りの想定 (STEP 2の結果)

①できたこと、分かったこと、 気付いたこと(資質・能力)	できること (can) を付け加えて、道案内することができた。
②理由や根拠 (働かせた見方・考え方)	これまで学習したこと (例えば [can]) を付け加えると場所のことを詳しく伝えられる。
③友達の考えでなるほど 思ったこと	味の感想 (様子) を伝えていた。
④これから (新たな問い、 他単元や生活への活用)	笑顔や、確認をするなど、もっと相手の気持ちを考えて伝えたい。

本時の展開 (4/8)

主な学習活動	研究視点から考える班の重点項目【見・考】【個】【協】
<p>1 chant & practice expression. 2 English time. (Small Talk) 3 Big Goal・指導計画を確認する。 4 Today's Goalと自分のめあてを設定する。</p> <p>地図の指し示しなし・情報の付け加えなし・相手への確認なし・無表情 A:Excuse me. Where is the Family Mart? B:Go straight for 2 blocks. Turn right. Go straight. You can see it on your left. A:Thank you. 子供の反応：この道案内では、楽しくないし、おすすみが分からない。</p>	<p>ア 自分の問いをもつ 課題発見のための工夫【見・考】【個】 教師のスキットを見て、Today's Goalを立てられるようにした。前時の自分の動画を見て、Today's Goalを達成するために必要なことを考え、自分のめあてを立てられるようにした。見方・考え方を働かせて解決することで、本時の目標の達成につながるようなめあてを引き出すために、見方・考え方が働くようにするしかけとして、楽しくなさそうなスキット (bad model) を提示した。</p>
<p>Today's goal 台湾の友達が楽しめるような道案内をするにはどうしたらよいだろうか。</p>	
<p>My goal ・ 道案内をはっきり言えるようになりたいな。 ・ ジェスチャーを入れたいな。</p>	<p>ウ 自分の考えを見いだす 自分の考えをもつための自己選択・ICT活用【個】 [自分で練習・友達と練習・先生と練習]など学習形態を自分で選択して練習できるようにした。ICTを活用し、分からなかった表現を音声で教師が保存し、それを何度も聞いて練習できるようにした。</p>
<p>5 スキットを見て、発表に取り入れたいことを考え、学習の見直しをも</p> <p>・ 内容を伝えたい。 ・ 感想を伝えたい。I like～.</p>	<p>エ よりよい考えを見いだす 考えを引き出すファシリテート【見・考】【協】 子供とどのようなやり取りをするか想定しておく。自分の道案内を発表させたり、困っていることを発表させたりして、到着場所でもんなことができるかや、到着場所の感想を伝える必要があるという、表現の工夫の視点に気付かせ、視点に沿って話合わせた。</p>
<p>6 場所の道案内をする。</p> <p>① Try 1 ② 中間フィードバック ・ 台湾の友達が楽しめるような道案内に必要な情報を考え、取り入れる。 ③ Try 2 ④ 中間フィードバック ・ 他の児童の発表を視聴し、よりよい道案内について考え、取り入れる。 ⑤ Try 3</p> <p>7 撮影タイム 8 学習をまとめ、振り返る。</p>	<p>カ 自己の学びの変容を自覚し学ぶよさを実感する振り返りの方法【見・考】【個】【協】 撮影したものをしながら、本時の学びを振り返り、自己の成長、学ぶよさの実感につなげた。また、一単位時間、常時、本時の目的や自分の様子を振り返って、自己調整しながらゴールの達成に向かうことができるように、本時の目的を適宜確認しながら学習を進めた。(行為の中の省察による自己調整)</p> <p>中間フィードバックの想定 ①楽しめるようにするために他の表現はないかな？ 困っているところはないかな？ ②うさぎが見れるよって言いたいけど... ③見れる？ ④見ることができただね。できるは？ ⑤Can! You can see rabbit. ⑥美味しいって何て言うの？ ⑦delicious! It's delicious. ⑧わたしもIt's(感想).やYou can～を取り入れてみようかな。</p>
<p>・ 今まで学習した表現のYou can～.などを付け足すと台湾の友達が楽しめるようになる。 ・ 笑顔で相手の気持ちを考えてコミュニケーションをとることが大切だ。</p>	

STEP 4 授業実施, 子供の「振り返り」の活用

子供の「振り返り」についての内容と評価
観点①自己の資質・能力の変容に関しては、想定通り、感想やできることを付け加えて、道案内ができたなどの子供が多かった。観点②見方・考え方に関しては、想定通り、これまでに学習したことを使って、相手に合わせYou can～.を付け加えると、内容を詳しく伝えることができたという子供が多かった。しかし、観点③他者理解・協働に関しては、友達の考えを参考にし、表現の工夫を考えることができていない子供もいて、案内場所の感想の付け加えは不十分だった。観点④新たな問い・活用については、相手への確認をしたいといった子供は少なかった。

手立てについての教師自身の評価, 行った授業改善
友達の表現を参考にした自分の表現の工夫が不十分だったので、その後の授業では、自分の伝えたいことに置き換えたら、どんな工夫ができるか、見通しを持たせてから、2回目や3回目のTryを行った。自分の伝えたいことに置き換えたらどんな工夫ができるか、グループで話し合わせるなどして、活発に意見交換する時間を設定した。相手が分かっているかどうかの確認といった他者への配慮に気付けるよう、場面を具体的に想像したり、互いに立場を交代したりして、やり取りを行った。

次時へ・次の単元へ

特別支援教育（自立活動）の重点事項

日常との連携
日常生活における自分の困りを改善・克服していくための方法を見だし、実践していくことができるようにする。【日】【個】

ア 自分の問いをもつ

- 子供が学びの必要性を感じることでできる活動計画の作成と導入の工夫をする。【日】【個】
※ 自立活動の個別の指導計画を活用して活動目標を設定する。

【自立活動の個別の指導計画の活用】

客観的な発達検査だけでなく、担任による子供の実態の見取りや交流学級担任をはじめとする関わりのある人たちと様々な場で見られる姿について情報交換を行い、自立活動の個別の指導計画の作成を行った。学年の学習や校内行事との関連を考慮し、活動内容を組み立てる。

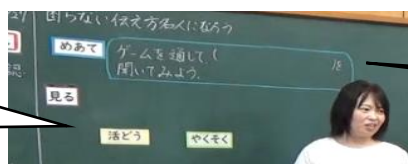
【導入での自己理解の手立て】

題材の第1時では、自分の日常生活の様子を動画で見たり、学習や生活の中で子供自身が感じている困難さや体験して感じた困難さを話し合ったりすることで、自分の課題に気づき、学びの必要性を理解して主体的に学習に取り組むことができるようにする。

目標を達成するために必要な項目の選択					
健康の維持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体的能力	コミュニケーション
(1) 情緒の安定に資すること。 (2) 学習による学習意欲の向上に資すること。 (3) 自己の理解を深めること。	(1) 他者との関わりの中で自分の役割を認識すること。 (2) 自己の理解を深めること。 (3) 自己の理解を深めること。	(1) 他者との関わりの中で自分の役割を認識すること。 (2) 自己の理解を深めること。 (3) 自己の理解を深めること。	(1) 他者との関わりの中で自分の役割を認識すること。 (2) 自己の理解を深めること。 (3) 自己の理解を深めること。	(1) 他者との関わりの中で自分の役割を認識すること。 (2) 自己の理解を深めること。 (3) 自己の理解を深めること。	(1) コミュニケーション手段の選択と活用に関すること。 (2) 状況に応じたコミュニケーションに関すること。
具体的な指導内容	苦手な場面で、自分に合う持ち手のコンテナーの役割を身に付ける。	苦手な場面で、適切な表現で自分の考えを相手に伝える方法を知る。	同じ状況での多様な考えを知り、受け入れる。	話を聞く時や話す時のルールを決め、実践する。	
指導計画	特別支援学級(生活) 文法学習	特別支援学級 文法学習	特別支援学級 文法学習	特別支援学級 文法学習	
評価					

自立活動の個別の指導計画

どんなことに困っているのかな？
○○のときはどうして困っていたの？



どんな課題があるか明らかにしてめあてを立てる。

イ 解決の見通しをもつ

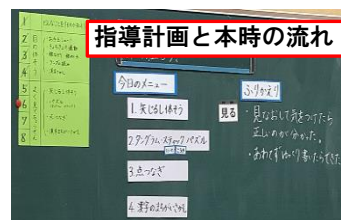
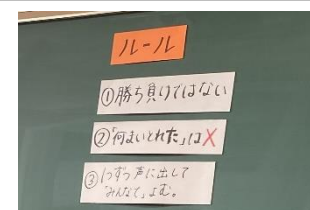
- 活動の見通しをもつことができるような導入の工夫と構造的な板書の工夫をする。【個】

【導入の工夫】

授業の導入で、指導計画をもとに活動の目的の確認を行ったり、ワークシートで前時までの取組の様子を振り返ったりすることで、本時の活動の目標や内容の見通しをもつことができるようにする。また、活動のルールや取り組み方は説明だけでなく、教師がモデリングしたり、実際に子供が取り組んでみたりすることで十分に理解できるようにし、安心して活動できるような状況づくりをする。

【構造的な板書の工夫】

視覚情報を最小限にして、学習の流れが分かりやすい板書にすることで児童が活動の見通しをもつことができるようにする。活動計画や本時の流れ、活動のポイントなどは毎回共通して掲示することで、子供がどこに注目すればよいか明確になるようにする。



指導計画と本時の流れ

カ 自己の変容を自覚し学ぶよさを実感する

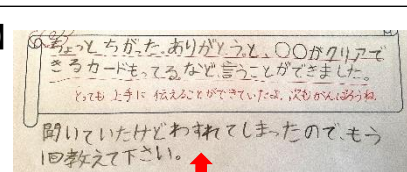
- 達成感を感じ、日常生活でも生かしていきたいという意欲をもつことができるような振り返りの工夫をする。【日】【個】
- 学んだことを日常生活の中でも生かすことができるようにするための工夫をする。【日】

【達成感を感じ、主体的に学びを生かそうとするための振り返りの工夫】

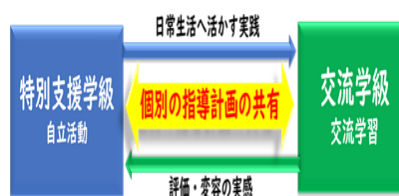
「振り返り」の際に、教師が子供の頑張った姿や今後の活動に生かせる点などを具体的に称賛することで、子供が達成感を感じ、自己の変容を実感するとともに、学んだことを交流学級での活動や日常生活場面でも実践しようという意欲を高めることができるようにする。

【学びを生かすための効果的な連携】

子供に関係する交流学級担任や専科担任などと、自立活動の目標、授業の内容、子供の様子等について情報共有を行う。また、日常生活で意識したいことを約束表にして子供が交流学級での授業に持参し、集団内での姿を交流学級担任などが見取って約束表に書き込むようにする。次時の自立活動の学習で約束表を使って振り返りを行い、学んだことを様々な日常生活の場でも生かすことができるようにする。



日常生活の中で生かせる方法を記入



活動名「見る・書くトレーニングをしよう」

STEP 1 活動目標と活動計画の設定

まず、標準化された検査や県総合教育センターのアセスメントシートを活用して、子供一人一人がどのような教育的ニーズがあるかを客観的に把握した。また、交流学級担任や専科担任、支援員と共に情報を共有し、日常の学習や生活の様子からも実態を把握して自立活動の個別の指導計画を作成した。次に、実態把握の結果から、漢字などの文字を見て正しく書いたり覚えたりすること、指先の不器用さ、手と目の協調運動が苦手であるという課題の克服のために「枠内に文字を書いたり正しく漢字を書いたりすることができる」という長期目標を設定した。そこで、本活動では「見る・書くトレーニング」の活動を設定し、意識して見たり書いたりすることや枠を意識してなぞったり書いたりすること、手本の線や文字を自分なりの方略を使いながらよく見て正しく書き写すことなどを活動の目標に設定した。

活動計画

一 次	「どんなことをするのか知ろう」(全1時間) (活動のねらい) 自分の苦手さを知り、それを克服するための学習意欲を喚起する。 1 活動の流れを知る。 2 漢字を書く。 3 どんなどきに困っているか確認する(見る・書くことに関して日頃思っていることをたくさん出し合う)。 4 これまで見る・書くことに関してどのようにしていたか振り返る。 5 見る・書くことに関してよりよくしていくために学習していくことを知る。 6 自分の抱える苦手さや今後頑張りたいことをワークシートに書いて発表する。
	「目の体操をしよう」(全3時間) (活動のねらい) 眼球運動を中心としたトレーニングを行う。 1 前時を振り返り、本時の流れを確認する。 2 本時のめあてを確認する。 3 お手玉シュート(ウォーミングアップ)をする。 4 きよろきよろ運動をする。 5 線なぞり・線迷路(選択)をする。 6 ひらがな・カタカナ・漢字ランダム読み(選択)をする。 7 漢字さがしをする。 8 頑張ったことをワークシートに書いて発表する。
二 次	「よく見て挑戦しよう」(全4時間) (活動のねらい) 視空間認知を中心としたビジョントレーニングを行う。 1 前時を振り返り、本時の流れを確認する。 2 本時のめあてを確認する。 3 矢印体操をする。 4 タングラムパズル・スティックパズル(選択)をする。 5 点つなぎをする。 6 漢字のまちがいがしをする。 7 頑張ったことをワークシートに書いて発表する。

STEP 2 子供に書いてほしい「振り返り」の想定(キーワード)

導入において「何ができるようになるための活動なのか」ということを毎時間確認することで、「よく見たら」「ていねいに書いたら」などの上手に書くための自分なりの方略を見つけたり、「正しく書くコツ」を意識して活動したりして、「振り返り」ができるようにした。また「見る力」と「書く力」の向上に焦点を当てたゲーム性のある様々な活動を設定することで、苦手なことを楽しみながら克服することができるようにし、活動を通して「全部正しく書くことができた」「次はゆっくり書くことを頑張りたい」などの次時へ繋がる「振り返り」ができるようにした。

STEP 3 「振り返り」を表出しやすくするための活動や手立ての設定

導入の段階で、活動のめあてに対し「ゆっくりを頑張りたい」「終わったら確認したい」などの自分はそのように頑張るかを子供が意識できる発問をすることで、振り返りやすくした。また、「振り返り」をする前に、本時の活動が「何ができるようになるための活動だったか」を改めて確認することで、子供がどんな活動をして何を頑張ったかを教師が言語化して称賛し、活動を想起しやすいようにした。

本時の目標 (STEP1 の結果)

全体の目標

- ア 意識して見る・書く課題に自分なりに工夫して取り組むことができる。
- イ 枠を意識してなぞったり書いたりすることができる。
- ウ 手本の線や文字をよく見て正しく書き写すことができる。

個人の目標

(A児)

- ・ 姿勢を正しくして座り、枠や線を意識してなぞったり書いたりすることができる。
- ・ 手本の線や文字を注意してみるところを意識したり、自分なりの方略を使いながらよく見て正しく写したりすることができる。

(B児)

- ・ 枠や線を意識してなぞったり書いたりすることができる。
- ・ 手本の線や文字を注意してみるところを意識したり、自分なりの方略を使いながらよく見て正しく写したりすることができる。

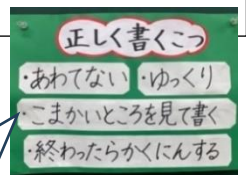
本時で引き出したい子供の姿

- ・ できるようになりたいと思いながら楽しんで時間いっぱい取り組む姿
- ・ 自分なりにうまくいくコツを試行錯誤しながら見付けようとする姿
- ・ 自分なりの方略を使いながら、書いたり写したりしている姿

本時の振り返りの想定 (STEP2 の結果)

- ・ ていねいに書いたら点つなぎがきれいにできるようになった。
- ・ ゆっくりやったら矢印体操や点つなぎが上手にできた。
- ・ 次は慌てずに漢字の間違い探しをして、全部正解したい。

これまでの学習の中で見付けた自分なりの方略を本時の活動に生かすために、最初に確認を行う。



ワークシートを基に、どんなめあてで活動したのかや、頑張ったポイントを見直して、自分の「できた」を振り返る。



本時の展開 (6/8)

主な学習活動	研究視点から考える班の重点項目【日】【個】【協】
<p>1 活動計画を確認し、前時の活動を振り返る。</p> <p>2 本時の活動の流れを確認する。</p> <p>3 本時のめあてを確認する。</p>	<p>ア 自分の問いをもつ 活動計画の視覚化【個】</p> <p>子供が全体を見通すために、構造化された活動計画を振り返ることで「何ができるようになるための活動なのか」を確認した。これまでにできるようになったことを確認したり、本時の学習を見通したりして学習意欲をもつことができるようになった。</p> <div data-bbox="1276 212 1484 481"> </div>
<p>何に気を付けたら上手にできるようになるか、こつを見付けよう。</p> <p>4 本時の活動をする。</p> <p>① 矢印体操をする。</p> <p>② パズルをする。</p> <p>③ 点つなぎをする。</p> <p>④ 漢字間違い探しをする。</p>	<p>イ 解決の見通しをもつ 具体的な手立ての見出し【個】</p> <p>何に気を付けるとよいか「よく見る」「ていねいに」「ゆっくり」等これまでの学習を通して出てきたキーワードの言葉を「正しく書くこつ」として導き出すことで、活動の見通しをもつことができるようになった。また、「正しく書くこつ」から、自分の頑張りたい視点を選ぶことで、個人の活動目標が明確になった。</p> <div data-bbox="574 772 1484 1008"> </div>
<p>5 活動を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> よく見たら矢印体操が全部できた。 ゆっくりやったら矢印体操や点つなぎが上手にできた。 一本ずつ線を見比べていったら、漢字の間違いが見つけやすかった。 漢字も言いながら書いてみたら書きやすかった。 	<p>カ 自己の変容を自覚し学ぶよさを実感する 学習意欲向上のための即時評価【日】【個】</p> <p>活動の途中で、自分なりのこつを使って取り組んでいる時や前時よりも上手にできた時などは「頑張りポイント」にスタンプを押したり言葉かけをしたりして即時評価し、活動への意欲をさらに高めることができたようにした。</p> <p>カ 自己の変容を自覚し学ぶよさを実感する 「振り返り」の前のめあての再確認【日】【個】</p> <p>「振り返り」の前に「本時の学習が何だったか」「自分がどんなめあてを設定したか」をワークシートや板書等でもう一度確認して「振り返り」を行うことで、どんなことを頑張ったのかを振り返りやすくした。また、言語化することが苦手な子どもには、教師と一緒に考えながら「いつもよりゆっくり書いていたね」や「全部正しく書けたね」など教師の言葉を手掛かりに自分の姿を振り返ることができるようになった。</p>

STEP 4 授業実施, 子供の「振り返り」の活用

子供の「振り返り」についての内容と評価

活動の視点を「上手に書くためのこつ」として絞ったことで、子供自身が自分なりの方略を使って正しく書いたり上手に書いたりすることに達成感を感じる「振り返り」を行うことができた。また、活動計画全体を示していることで、子供が次の活動への見通しをもち「次はゆっくり書くことを頑張りたい」や「国語の時間にも上手に書いてみたい」などの「振り返り」を書く姿も見られた。

手立てについての教師自身の評価, 行った授業改善

子供の苦手なことへ取り組む活動なので、「見る力」と「書く力」の向上に焦点を当て、ゲーム性のある活動を設定したことで楽しく取り組むことができた。また、共通の課題や選択できる課題を取り入れることで、より子供自身の課題に沿った活動に取り組むことができた。さらに、「正しく書くこつ」を常に教室に掲示しておくことで、書く作業をする際にはどこに気を付けて書いたらよいかを常に意識したり、上手に書けた時に称賛したりして自立活動で学んだ方略を実際の授業や学習でも生かすことができるようになった。

次時へ・次の活動へ

Ⅷ 研究のまとめ

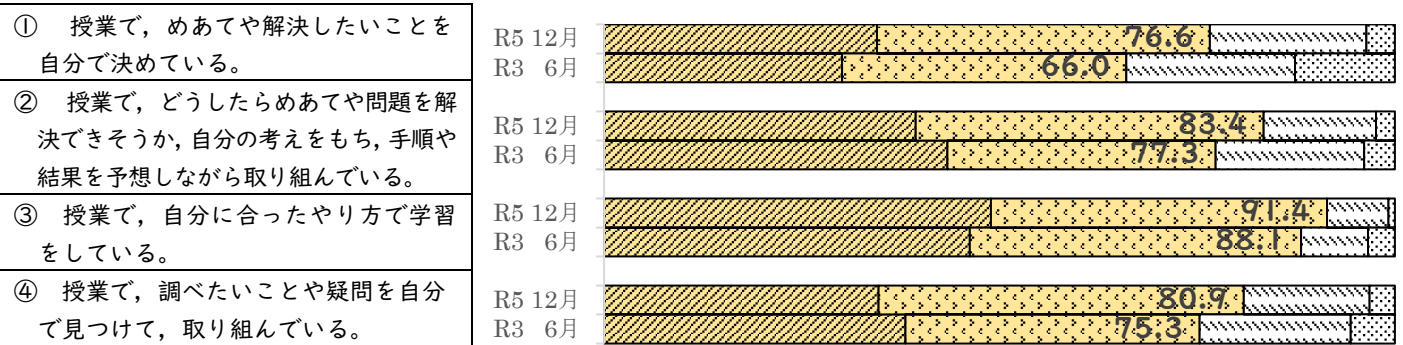
(1) 子供はどう変わったか【R3:6月, R5:12月2~6年】[グラフ内の数字は肯定的に回答した子供(%)]

4あてはまる 3すこしあてはまる 2あまりあてはまらない 1あてはまらない

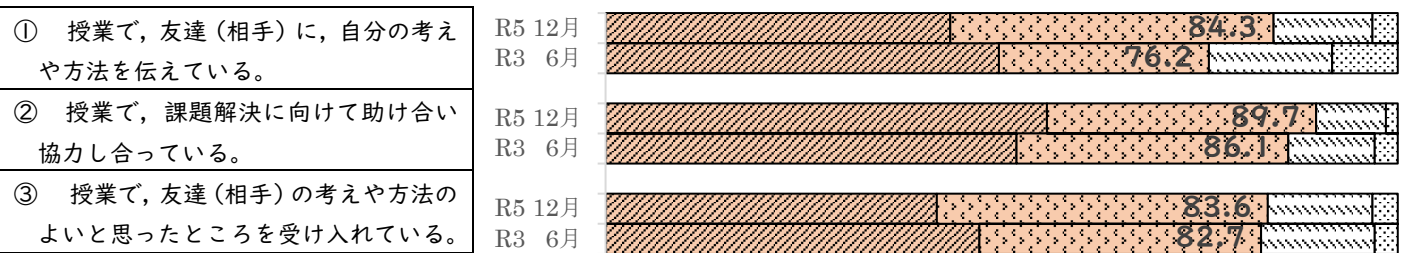
見方・考え方を働かせ、理由や根拠をもって解決しようとしている！(見方・考え方を働かせた学び)



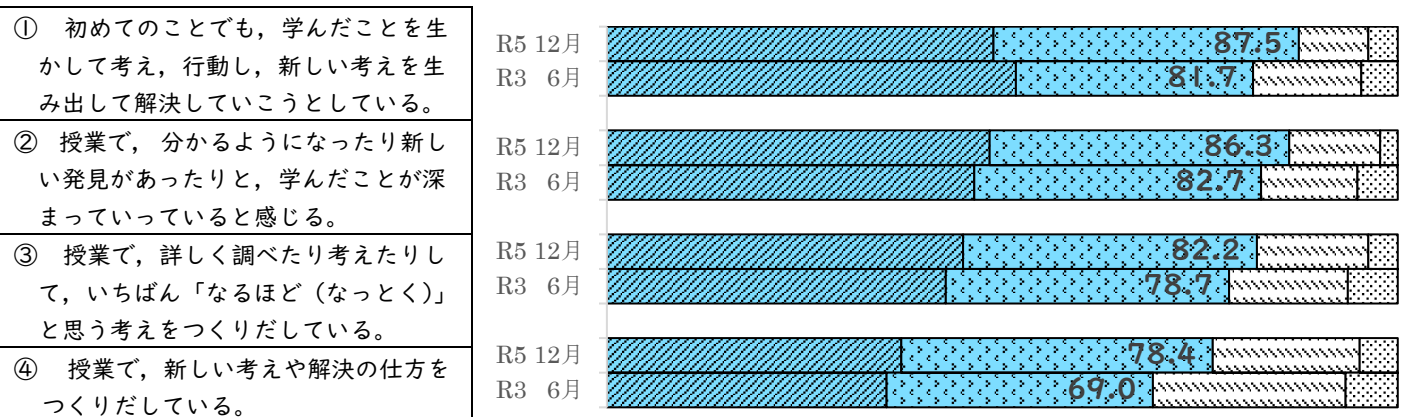
目的意識をもち、自立的に学ぼうとしている！(個別最適な学び)



学び合い、異なる考えを組み合わせよりよく解決しようとしている！(協働的な学び)



解決に役立つ納得できる考えや新たな考え(解決策)をつくり出している！(新たな価値の創造)



(2) 「振り返り」から構想する授業デザインの成果と課題(教師のアンケートより)

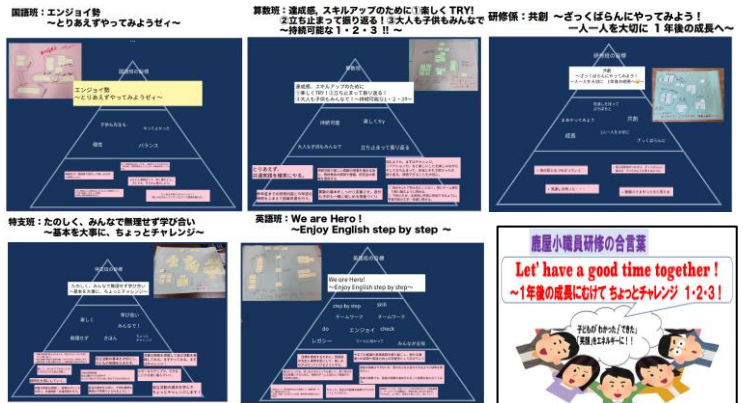
成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「振り返り」から構想する授業デザインに取り組んだことで、教師自身が子供に身に付けさせたい資質・能力、働かせたい見方・考え方を明確化したうえで、授業に取り組むことができた。 ○ 発達の段階に合わせた「振り返り」を行い、自己の変容を自覚する子供の姿を見ることができた。 ○ 前時の「振り返り」から本時のめあて(My Goal)へつなげることができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「振り返り」の観点、方法、頻度、タイミングの妥当性について、今後も検討していく必要がある。 ○ 「振り返り」を形成的評価として、次時や同じ領域の次の単元への授業改善に生かしていく実践がまだまだ不十分であったので、今後取り組んでいきたい。

鹿屋小の取組 ～こんなこともやっています～

校内研修の充実に向けた取組

○ 研修開きで本年度の研修目標の設定

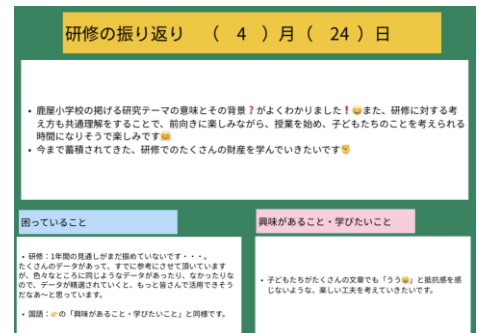
4月の第1回目の職員研修に研修開きを行いました。まず、本校の歴史や存在意義、学校教育目標、研究主題や目指す子供の姿、教育情勢の動向と研究主題の関連を確認しました。その後「本年度、どんな職員研修にしたいか」といった研修目標を四つの教科班と研修部で考えました。それらを帰納的にまとめ、全体の研修目標を設定しました。職員一人一人の想いを集約させた研修目標を設定することで、何を目指して、それを達成するためにどんな取組をしていくのかビジョンを共有できると考えました。



本年度の各班のテーマ研修目標と決定した全体目標

○ 職員研修の「振り返り」を実施

子供たちの「主体的・対話的で深い学び」の実現のために、職員も「主体的・対話的で深い学び」をしていく必要があります。研修で学んだことの文脈化による自己の変容を自覚し、学ぶよさを実感できるように、職員も「振り返り」を行いました。職員の「振り返り」の記述内容を見て、しっかりと伝わっている事柄、補足説明が必要箇所を見いだして、その後の研修の進め方に生かしていきました。



職員研修についての「振り返り」の記述内容

○ 各班の取組を共有する班交流会の実施

教師の「協働的な学び」の充実を図るために、本校では毎年8月に研究主題に対する各班で取組を紹介し合い、それぞれの実践内容を共有する班交流会を実施しています。実施する目的は「各班の班員自身が、発表や発表の準備を通して、班の取組を整理し、より深く理解する」「他の班の実践を知り、個々の授業や授業力向上に生かす」「教科横断的な取組の可能性を模索する」の三つがあります。各班の取組を授業動画、模擬授業や板書を示したり、スキット等の活動を実際に行ったりしながら説明したりする発表が見られました。



教師の手立ての工夫を授業動画で紹介(国語班)



見方・考え方モンスターの他教科への活用実践紹介(算数班)



JTEと学級担任とのスキットの紹介(英語班)



特支学級担任と交流学級担任の情報共有(特支班)

○ 共同研究員との研修

本校は、県総合教育センター研究提携校となった当初から鹿屋市教育委員会の指導のもと、共同研究員制度を導入しています。大隅地区の小学校に所属する先生方が年に約7回、本校の校内研修に参加し、一緒に学んでいます。本校職員にとって、他校の先生方の意見や実践を知ることは、実践や研究を深めるための貴重なヒントとなります。共同研究員の先生方にとって、本校の研究内容や校内研修の進め方を所属校に生かすことができるよさがあります。様々な学校の先生方との学びは、教師の「協働的な学び」の充実につながっています。

共同研究員の声

- 他校にいながら、鹿屋小の研修に参加できることは、研究内容だけでなく、校内研修の進め方も学ぶことができ、とても参考になります。
- 様々な学校の先生方が集まってきたので、横のつながりができ、情報交換ができたことはとてもありがたかったです。
- 県総合教育センターの研究主事の先生方からの御指導やお話を定期的に直接受けることができ、とても貴重な学びの時間となっています。御指導いただいた内容を所属校の研修にも生かしていきました。

授業研究の充実に向けた取組 (本校では、授業研究を「みんなで取り組み、授業改善に向けて学び合う時間」と捉え、取り組んでいます。)

○ **研究の視点に沿ったワークショップ型授業研究**

令和3年度より、ワークショップ型授業検討会に取り組んでいます。研究主題から考えた目指す子供の姿を引き出すことができているかについて、授業を分析し、授業改善に向けた授業研究を行っています。



ワークショップ型授業研究の様子

○ **焦点化した子供の「姿」に着目した授業参観**

子供の「姿」は事実であるため、経験年数や学年、教科等の垣根を越えて、どの参観者も見取ることができ、質的な深まりのある授業研究になっています。特に、本年度は焦点化する「子供」を決めて行う授業参観にも挑戦しました。焦点化することで子供の変容を確実に見取ることができたり、共通の話題で語り合うことができたりしました。



焦点化した子供を参観する様子

○ **インタビュータイムの導入(子供の「声」にも着目)**

研究の視点を通した授業改善につなげるために、今年度から研究授業の終了後に、インタビュータイムを導入しました。子供の「姿」だけでは、実際に、子供がどう思っていたのか汲み取れない部分もあります。そこで、子供の「声」を聞き、教師の手立てが効果的であったかどうか、どのように授業改善していけばいいかを考えるためのよいヒントとなっています。質問内容は、研究の視点に沿った内容と、授業を見ながら参観者が子供に聞いてみたいと思った自由な内容です。授業研究については、まだまだ課題もあります。校内研修に対する「振り返り」を大切にPDCAサイクルで改善を図りながら、参加者全員がより多くの学びある授業研究を今後も目指し続けます。



子供へインタビューする様子

業務改善に向けた取組 (本校では、テーマ研究の充実と業務改善の両立を目指しています。)

○ **「業務改善係」の設置(令和3年度～)**

業務改善の啓発、具体的取組を立案する「業務改善係」を校務分掌の1つとして創出し、設置しました。

○ **「業務改善係」が行ってきた64の取組(令和3年度～)**

業務改善係を中心として令和3年度から行った業務改善に関する取組は、64あります。この64の取組は、以下の四つに分類できます。取組についての具体的な内容を別紙に記載しました。二次元コードで読みとっていただき、是非参考にしてください。

(1) 意識化に関する取組

【学級PTAなどによる啓発(保護者・地域)、業務改善便りの発行やアンケートの実施(職員)など】

(2) 精選・簡素化に関する取組

【通知表の内容の見直し(観点・所見)、通知表の発行回数を前後期の2回へ、教育課程の見直しによる行事の精選・授業時数の調整、学校徴収金を口座振替へ、家庭訪問を個別懇談へなど】

(3) 分担に関する取組

【業務の平準化(負担の公平化)、教科担任制の実施など】

(4) ICTを活用した取組

【校務支援システムの活用、Webアンケートフォームの活用、資料の電子化、グループウェアの活用など】



○ **業務改善の成果**

	R2			R4 5月			R5 2月末		
	人	%	計	人	%	計	人	%	計
十分感じている	0	0.0		2	8.0		3	11.1	
概ね感じている	5	13.5	13.5	12	48.0	56.0	17	63.0	74.1
あまり感じていない	28	75.7		11	44.0		7	25.9	
全く感じていない	4	10.8	86.5	0	0.0	44.0	0	0.0	25.9

年度	R3	R4	R5
1カ月当たり 時間外労働 (時間)	-7.0時間	-17.9時間	-19.2時間
1日当たり 時間外労働 (時間)	-0.2時間	-0.4時間	-0.6時間

職員の意識の変容比較

職員の時間外労働時間の比較(R2年度を基準として)

業務改善は管理職や係だけが行うものではなく、一人一人が自分事と捉え、全員で行うものです。また、「業務改善＝なんでも廃止」では決してありません。本校が目指す業務改善は、職員が子供一人一人と向き合う時間を確保し、職員が本来取り組むべき教育活動の一層の充実を図るための業務の精選や効率化です。今後も、子供にとってよりよい充実した教育活動を目指すことを大前提に、保護者・PTAや地域の方々等の理解・協力のもと業務改善を推進し、教員にとって魅力ある学校を目指し続けます。

【R5 研究同人】

〈本校職員〉

森田勝二(校長) 下津純昭(教頭) 伊地知啓一郎(研修係) 粟屋敏郎 井手健太 伊東奈央 上園弘太郎 大田理代
 熊野梢 坂元佳子 園田夏美 平世理奈 高橋誠 竹之内慶太 玉井祐介 塚田睦実 水流かほり 徳永智久
 戸高正恵 中倉希美 中野誠也 濱田梨佳 東美里 福里智子 松崎理絵 松崎優子 間淵結衣 宮崎由衣圭
 八木裕太郎 安水理恵子 山ヶ城真一 山口智子 米永聡子 渡邊ただよ 松原るみ 青木伸二 山口千沙都
 坪山麻衣子 梶原美鈴 山元和秋 安藤めぐみ 迫田早苗 繁昌真由美 三浦彩 百枝ゆかり 米澤美沙紀

〈共同研究員〉

深美陽市(大始良小) 永吉大貴(寿小) 田邊奈菜・立山唯人・田之頭あゆみ・原田英子・富永明子(寿北小) 釘田康恵(西原小)
 池田彦彦・牛ノ濱啓資(西原台小) 津之地美帆(祇川小)